



日本を代表するピアニスト。  
輝かしい半世紀の集大成となる  
中村絃子の「今」をお聴き下さい。



# 中村絃子

デビュー50周年記念 ピアノ・リサイタル

## Program

1961年12月、東京文化会館での初リサイタルの再現プログラム!

- 🌹 スカルラッチィ=タウジツヒ  
バストラレとカプリス
- 🌹 ベートーヴェン  
ピアノ・ソナタ第8番 ハ短調 Op.13「悲愴」
- 🌹 シューマン  
謝肉祭 Op.9
- 🌹 フォーレ  
ワルツ・カプリース 第1番 Op.30
- 🌹 ラフマニノフ  
2つの前奏曲 変ホ長調 Op.23-6  
ト短調 Op.23-5
- 🌹 ショパン  
バラード 第1番 ト短調 Op.23  
練習曲 変ト長調 Op.10-5「黒鍵」  
練習曲 ハ短調 Op.10-12「革命」  
ポロネーズ 変イ長調 Op.53「英雄」

2010  
**3/22** (月・休)  
PM 1:30 開演

愛知県芸術劇場コンサートホール

S ¥6,500 A ¥5,500 B ¥4,000 C ¥3,000 学生 ¥2,000 (税込)

主催: 中京テレビ放送、FM AICHI

お問い合わせ  
お申込み **中京テレビ事業 ☎052-957-3333**

〒460-8613 名古屋市中区錦3-15-15 CTVビル6F (月～金 AM9:30～PM5:30 / 土・日・祝日休演)

この票の効力は往復バスケットに、郵便払済名、公演日時、住所、氏名、年齢、電話番号、学校名、学籍番号を明記の上、  
中京テレビ事業「学生券」係までお申込みください。公演の3週間前に到着の上、お席をお取りできるか否かをご連絡  
します。往復バスケットは、1公演1名様でお申し込みいただけます。

●当日時刻変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。●未就学児童の出入場はご同様の場合でもお断り致します。



Photo:尾形正法

10/9 (金) AM10:00  
発売開始!

インターネットからでもお申込み頂けます。

<http://cte.jp> 中京テレビ事業 検索

チケットのお求めは

チケットぴあ (Pコード 335-650) 0570-02-9999  
愛知芸術文化センタープレイガイド 052-972-0430  
ローソンチケット (Lコード 47811) 0570-084-004  
宋プロチケ92 (日三級PG) 052-953-0777  
中日サービスセンター (中日ビル1F) 052-263-7282  
イープラス eplus.jp



Photo:尾形正法

## profile

3歳で、桐朋学園音楽科の前身となった「子供の為の音楽教室」第一回生として井口愛子氏に師事。10歳からレオニード・コハンスキー氏に学ぶ。早くから天才少女として名高く、全日本学生音楽コンクールの小学生部門、中学生部門と優勝を重ねたのち、慶応義塾中等部3年在学中に、第28回音楽コンクールにおいて史上最年少で第1位特賞を受賞。ただちに翌年、NHK交響楽団初の世界一周公演のソリストに抜擢され華やかにデビューした。その後、ジュリアード音楽院で日本人初の全額奨学金を獲得、ロジャー・レヴィン女史に師事。第7回ショパン・コンクールで日本人初の入賞と併せて最年少者賞を受賞。以後今日に至るまで、中村絃子の名は日本のピアニストの代名詞となり、その演奏は国内外3500回を超える演奏会を通じて聴衆を魅了し続けている。

その演奏ぶりについては既に余りにも多くが語られているが、20世紀最高の音楽批評家の一人とされるハロルド・ショーンバーグ(ピューリッツァ賞受賞)は、そのピアニストに関する代表的な名著「偉大なピアニストたち」(『The Great Pianists』Random House 1987)の中で東洋人ピアニストとしてただ一人中村絃子の名を挙げ、その特色を「純爛たる技巧」と「溢れる情感」そして特に「ロマンティックな音楽への親和力(affinity)」にあると評した。事実、彼女の繊細なリリシズムと激情のダイナミズムを兼ね備えた天性をもし「ロマンティック」と形容するならば、その一種デモニーッシュなまでの「親和力」こそ、聴き手の魂をかくも惹きつける中村絃子の魅力の秘密であろう。

「今夜の幕開けとなったショパンの演奏では、現在世界的ピアニストとして注目される日本人ピアニスト中村絃子が、圧倒的スターとして輝いた。豊かな個性と感性と知性のぎりぎりの極限に身をおいだした深い表現に溢れた演奏は、満場の聴衆を感動させた」(『ジュリアード・シネチリア紙』)。「ピアニストは鍵盤から紡ぎ出すピロッドのような柔らかい音色と、時には繊細なキータッチで或いはインパクトのある力強い音で、やがて夢の中に溶けてゆくようなメロディを創りあげている。この演奏は熱烈な拍手によって迎えられた。またこの演奏のおかげで我々は、古典的な音楽の中にも現代の我々の好みを見つけ出せることが分かったのである。ピアノの音色は水晶のように澄み切って響き渡り、あたかも我々をショパンの時代に呼び戻してくれているのか、或いはショパンが現代の我々のもとに現われて語りかけてくれているのか...、そんな「時」を超越した空気を醸し出していた」(ラ・シチリア紙)と、これは2002年イタリアのベッリーニ劇場に招かれて、ショパンのピアノ協奏曲第1番を演奏した際の賛辞であるが、ショーンバーグ以来定評となった中村絃子の演奏ぶりを伝える一例である。

演奏会に加えてレコーディングも活発で、1968年ソニーレコードの専属第1号アーティストになって以来出版した50点近い録音は、クラシックとしてはすべて桁外れの売れ行きを示し、そして2009年9月には、「中村絃子デビュー50周年記念アルバム」が完成。これは、ベルリンのテルデックススタジオのスタッフと組んで、二年間で10枚のCDを一挙に録音した画期的なもので、「たったいまの中村絃子を聴いてもらいたい」という、中村絃子の夢のこもった新アルバムである。また1982年以来、チャイコフスキー・コンクール、ショパン・コンクールをはじめ数多くの国際コンクールの審査員を歴任し、その体験に基づく最初の著書「チャイコフスキー・コンクール〜ピアニストが聴く現代〜」(中央公論新社刊)は、文明論としても高く評価され第20回大宅壮一ノンフィクション賞を受賞。続く第2作「ピアニストという童話がいる」(文藝春秋刊)も文藝春秋読者賞を受けるなど、「文武両道」のスーパーレディぶりは名高い。2003年、<NHKTV 人間講座>で8回にわたって講演した「国際コンクールの光と影」も、国際ピアノコンクールの歴史と現在を語るだけでなく、21世紀の「豊かな社会」「情報化社会」におけるクラシック音楽の未来を洞察した文明論として好評を博し、この講座をもとにした著書「コンクールでお会いしましょう〜名演に臨んだ時代の原点〜」(中央公論新社刊)も話題作となった。

近年は、広く国内外の若手ピアニストの育成や紹介に努め、浜松国際ピアノコンクール審査委員長、浜松国際ピアノアカデミー音楽監督などをつとめるとともに、ショパン、チャイコフスキー、ロンティボー、ヴァン・クライバーン、リーズ、ダブリン、ブゾーニ、シドニー、パロマ・オシア、北京、上海など各国国際コンクールの審査も数え切れない。また、「難民を助ける会」や日本赤十字などを通じてのボランティア活動にも積極的な役割を果たし、日本における「対人地雷廃絶」運動ではその先頭に立った。その長年の演奏活動に対しては、日本芸術院賞・恩賜賞、紫綬褒章を初めとして、NHK放送文化賞、N響有馬賞、エクソンモービル音楽賞などを受賞。加えて、アルトゥール・ルービンシュタイン・ゴールドメダル、ポーランド共和国コマンドラー・勲章など、ピアニストとしての国際的受賞も多く、その国際的活躍に対して外務大臣表彰を受けている。また前述の大宅壮一ノンフィクション賞、文藝春秋読者賞などの文学賞やダイヤモンド・ソナリディ賞、ダイヤモンドレディ賞といった音楽賞以外の受賞も多い。

東京交響楽団との連続31回となるニューイヤーコンサートで始まった2009年は、オランダ・アーネムフィルとの演奏旅行(3月)、三曲のコンチェルトを一夜で演奏する都響との「コンチェルトの夕べ」(7月)などと続き、そして「デビュー50周年」を迎える 秋九月からのシーズンには、全国47都道府県の代表的都市での記念リサイタルやN響を初めとする各オーケストラとの記念公演に加えて、「中村絃子デビュー50周年記念アルバム(10枚組)」の出版など、さまざまな形での意欲的な活動が予定されている。

## 中村絃子

Hiroko Nakamura (Piano)

公式ホームページ  
[www.nakamura-hiroko.com](http://www.nakamura-hiroko.com)

